

がんばれ看護学生!!

2018年9月号 第227号

発行：京都民主医療機関連合会 ホームページ：<http://www.kyoto-min-iren.org> E-Mail：kangogakusei@kyoto-min-iren.org

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階 TEL (075) 314-5011 FAX (075) 314-5017

京都民医連★夏のナーシングセミナー

8月8日に3校から8名の看護学生さんが、セミナー体験に来られました。シャドウウィングでは現場で働く看護師さんの日常業務を見てもらい、自分が看護師になった時の看護について考えてもらうことができました。シャドウウィング後、緩和ケア病棟（予定）主任看護師から『意思決定支援（ACP）』についての講義を受けました。参加学生からは体験を通じて「病棟の雰囲気を知れた」「改めて看護師っていいなと思った」「患者さんや家族の意思を確認し、患者さんやご家族がよかったと思えるような看護をしたいと思った」と感想を頂きました。



京都民医連第二中央病院



☆お問合せ☆ 信和会 eggnurse@shinwakai-min.jp

TEL075-712-9133 担当：寺尾まで。いつでも、どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

8月2日に7校27名の看護学生さんが、各部署に体験、見学に参加してくれました。各部署の日常の様子や、部署説明、大切にしている看護について、現場で働く看護師から近い距離で、語ってもらいました。

午後からは集中ケア認定看護師さんを講師に迎え学習会をしました。また、各部署から写真を持ち寄り部署紹介のあと交流会をしました。1日を通じて「実習では聞けないことが聞けた。」「国試について聞けた。」「いろいろな人と話すことができた。」との感想を寄せて頂きました。次回は12/21企画予定です。



京都民医連中央病院



<もくじ>

- 1P：ナーシングセミナー報告
- 2-3P：看護学生の
ベトナム訪問記
- 4-5P：医療チーム紹介
- 6P：私の職場の
先輩看護師紹介
- 7P：民医連カエ
- 8P：私のオススメ
／休日の過ごし方

☆お問合せ☆ 京都保健会 kangaku@kyoto-hokenkai.or.jp

TEL075-813-5901 担当：日西まで。ご質問など、どうぞお気軽にお問い合わせ下さいね。

看護学生 ベトナム訪問記

ベトナム訪問の目的：

現地スタッフと協力して、地域に生きるリハビリテーションが根づくことを目的としています。

ベトナム（ベトナム社会主義共和国）

気候 5～10月が雨季・11月～3月が乾季になります。

雨季の後半は雨が一日中続くことがあります。日本の梅雨のように1日中降り続けるのではなく、一時的にスコールのように降っては止んで晴天になり、それを1日繰り返します。日差しはかなり強烈です。

今回の訪問中には急なスコールもありました。



医療制度

1人当たりの医療支出は215ドルです。貧しい国民は国立病院へ行くのですが、国民病院では人で溢れかえるほどです。私立病院との格差が大きいです。保険制度は公的保険と民間保険があります。

公的保険は強制加入です。しかし加入率は2014時点で71.4%です。僕が思っていたよりも保険制度は整っていると感じました。



1日目の訪問

20代女性 水頭症のお宅訪問をしました。水頭症の方を見たのは初めてだったため衝撃がありました。ローラー付きのベットでした。

ベット上で身体を洗ったり、工夫した排泄を行なっていることを聞きました。介助は母親が昨年の訪問で指導してもらったことを意識して行なっておられました。



2日目の訪問

5件のお宅訪問を行いました。ダウン症の女の子もいました。学校では友だちを叩いてしまったりするなど、対人関係がこれからどうなっていくのか問題でしたが関わり続けていると、一緒にボールを投げ合うなど協調性も感じられました。次回訪問時にどう変化しているのかが気になります。



3日目施設訪問

小児診察の様子です。小さい子ですが様々な障害を持っていました。しかし遊びを通してでは僕たちの真似ができたり、視覚的刺激を与えることにより変化する様子がありました。





4 日目

施設訪問+レクリエーション

施設にいる職員さんの子どもやリハビリに
来ている方たちにリハビリの一環として七

夕レクリエーションの飾りを作ったり願いごと書いてもらいました。また僕と PT の学生を中心に施設で
レクリエーションを行いました。

七夕物語の紙人形劇やリハビリを兼ねた遊びなどを行いました。楽しみのなかにも、リハビリを目的と
した企画ができて良かったです。

感想

今回ベトナム・タイニン省地域リハビリテーション支援活動
に初めて参加しました。1 回だけのベトナムへの訪問ではなく、
10 年以上前から続けられていた活動であり、ベトナム地域の
方々が自ら支えることのできる組織作りを目指して活動されて
いることがすごく分かりました。

この貴重な体験により、世界には昔の戦争により自らの未来
を奪われ、正しい治療ができてないため、まだまだ自らの持つ力を発揮できてない人がいることが分か
りました。そのためもっと世界のことを勉強し、看護を学び、世界へ働きかけのできる、世界に向けて行
動できる看護師になりたいと感じました。



川端診療所の試み

Fish哲学！～楽しいから成功する～

透析を受ける患者さんは、週3回4時間一生涯に渡って、病院や診療所の透析室に通わなければいけません。透析室では同時に多数の患者さんの治療を行うので、出来るだけルーチンワークで動けるようにマニュアル化されています。逆に言えばイレギュラーに弱い部門でもあります。毎日同じような業務をしているとどうしてもマンネリ化しやすく、仕事に対するモラル（やる気）が下がってしまいかねません。透析室では多くの患者さん、そして機械や材料、医薬品を使いますので医療安全管理がとても重要です。また血液を体外循環するので感染対策にも特に注意して治療にあたらなければいけません。そんななかスタッフのモラルが低下していたのでは、患者さんの安全・安心は守れませんよね。

そこで川端診療所・透析センターでは、毎年6月を医療安全推進月間と位置づけて様々な取り組みを行っています。今回は2017年度に取り組んだ「Fish哲学」について紹介致します。

Fish哲学とは、アメリカ西海岸・シアトルのさびれた魚市場がこれを導入したことで見事に復活したという実話で知られる、人材マネジメントの手法です。「仕事を楽しむ」(Play)、「人を喜ばせる」(Make Their Day)、「注意を向ける」(Be There)、「態度を選ぶ」(Choose Your Attitude)という四つの行動原理を意識して実際の仕事に取り組むのがフィッシュ哲学の基本となっています。シンプルで実践しやすいことから、組織の活性化や社員のモチベーションアップの秘訣として注目されている手法です。このさびれた魚市場は、現在、魚介類をキャッチボールのように放り投げて客に渡すパフォーマンスが有名な、地元屈指の人気スポットとなっていて、従業員が客と一緒に楽しく、底抜けに明るい光景からは、かつてそこが倒産寸前で、単調な仕事にみんなが疲弊していた“3K 職場”だったとは誰も想像が付きません。

そんな Fish 哲学を透析センターでも取り入れました。まずはみんなですべて Fish について学習し、スタッフを4つのチームに分けて、それぞれのチームで Fish を具体化する検討をしました。





各チームの取り組みは、患者待合室にスタッフ紹介や一言メッセージを貼り出したり、殺風景なホワイトボードを飾り付けしたり、患者さんへのお誕生日カード、生まれた年に何があったかを調べてそれを伝えてあげたり、スタッフ同士も今月のお誕生日ボードを作ったりしました。また患者さんに気持ちよく透析室に入室してもらえるようにと、透析室の汚れがこびり付いた床も職員みんなでピカピカに磨き上げて、透析室も待合室も華やかになりました。スタッフもフィッシュバッチをつけて、仕事を楽しくみんなでワイワイと、色々な企画を考え出して、結局1年間取り組みを継続しました。取り組んだスタッフからは、忙しい中でもみんなで一つの事に集中できてよかった。仕事を楽しく取り組む意欲が出来てよかった。ネガティブなことを言わなくなった。患者さんとの距離も縮まったなど好印象な意見が多かったです。Fishの取り組みを行って感じたことは、「成功するから楽しいんじゃない、楽しいから成功するんだ」ということを学んだような気がします。これからもFishを意識しながら楽しく仕事にあたっていきたいと思います。



(記事：川端診療所 藤井 耕)



私の職場の先輩ナース紹介

京都協立病院

☆看護師を目指したきっかけ

私が看護師を目指したきっかけは祖父の入院です。小さいころから週末になれば祖父の家に泊まり、学校が終われば祖父の所によく遊びに行っていました。ある日祖父が入院し、人工呼吸器に繋がれ管だらけになりました。お見舞いに行った私はそんな祖父の姿をみて、とてもショックで気分が悪くなり廊下のソファで横になっていました。すると、看護師さんに優しく声をかけてもらいとても安心しました。私もこんな風に誰にでも優しく、困っている人に声をかけられるような人になりたいと思い看護師を目指しました。

☆今までで嬉しかったこと

間質性肺炎で呼吸苦がとても強い患者さんでした。適宜、酸素を増量したりし対応していましたが、医師からの提案と本人の希望でセデーションをすることになりました。

この患者さんは初期教育 2 年目の課題である事例研究をさせてもらっていた患者さんでした。

卒 2 生が情報収集している中で、この患者さんはお風呂が大好きという事が分かりました。しかし、セデーションをしてしまったら入浴できなくなるかもしれません。まだ、しっかり意識のあるうちにゆっくり湯船につかって大好きなお風呂を楽しんでもらおうと提案しました。その日は、本来入浴日ではありませんでしたがゆっくり入浴できるよう卒 2 生と共に計画しお風呂に入ってもらいました。その時の本人の嬉しそうな表情、感謝の言葉、ご家族の笑顔、そして卒 2 生が喜んでくれた事で私自身もうれしくなりました。改めて看護の楽しさに気づき、モチベーションの向上へとつながった忘れられない思い出です。

※セデーション(せでーしょん)とは、薬を使って意識を意図的に落とすことで、苦痛を感じなくさせる治療のこと。

☆京都協立病院と良いところ

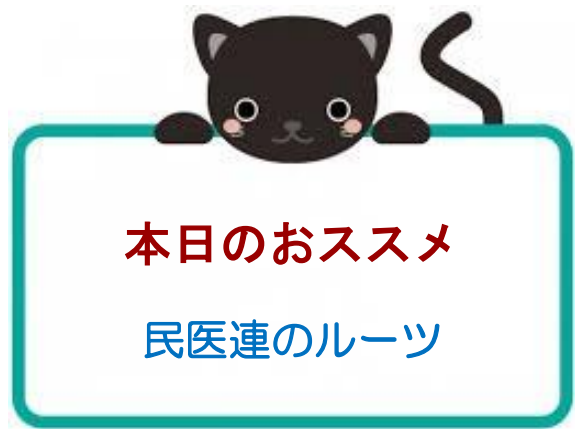
高度な医療機器もありませんし、最先端の医療も限られた資源の中では限界があります。高齢化が進んでいる現代、地域の特徴もあり当院の入院患者のほとんどが高齢者です。しかし、経験豊富な高齢者からは学ぶ事も多く、いろいろなことを教えてもらったり、些細なことにも気遣いの言葉をくれたりところが元気をもらっているような毎日です。

アットホームな雰囲気です。医師とも話やすく、他職種との連携もとりやすいです。その為、患者さんの思いに寄り添ったケアが提供できます。患者さんだけでなくご家族も含めて一緒に今後について考えることができる素晴らしい病院です。

☆看護学生さんへのメッセージ

授業に課題、実習やレポート作成、自主学习など本当に大変だと思います。何度か壁にぶつかったり、立ち止まったりする事もあるかと思いますが、一人で悩まず友達や先生に相談したり、仲間と気分転換をしたりして学生生活を乗り越え国家試験に向かって下さい。

(京都協立病院卒 2 生が指導者にインタビュー)



今回の café では信和会の歴史を紹介します！

○前史—「安井医院」時代

病院初代院長の安井信雄先生は吉田下大路町で約2年間の夜間開業ののち、1937年10月、左京区田中野上町に今日の第二中央病院の土台となる安井医院を開設。当時、保険患者は全患者の1～2割と貧困層が多かったこの地域で「**お金はある時に払えばええ**」と**命の平等を信条**に苦勞をいとわない地域の医師として第1歩を踏み出しました。今でも第二中央病院を「安井さん」と呼ばれる地域の方は多く、地域になくてはならない存在だったことが窺われます。

1955年1月には社団法人信和会の設立が認可され、続いて同年7月に安井病院が開設されました。多くの方の10円、50円の積み立てで病院化され、個人所有から集団所有に移行しました。同時に全日本民医連へ加盟しました。その後信和会には地域の要求から産まれた診療所が次々と加盟、設立されていきました。

○苦悩の80年代～90年代 協同組織と共に乗り越えた困難

80年代から90年代にかけて、職員の退職や医師・看護師不足、経営危機といった問題に苦しみました。綱領・方針に基づく医療活動の弱さや、医療情勢の変化や財務状況を踏まえない過大な設備投資・医療拡大、民主運営の弱さなどが分析されました。その中で自分たちの医療活動の原点が、地域の人達との協同の営みであることに立ち返り、**協同組織**を強化し一緒に困難に向き合うことで、少しずつ改善してきました。

○第二センター病院としてスタート

1997年には老朽化した北館を多くの方からの建設協力金により改築することができました。同時に京都民医連のセンター病院として、京都民医連第二中央病院と名称変更しました。その後も京都民医連あすかい診療所の開設や病院の療養病棟や回復期リハビリ病棟を開設し、2005年には日本医療機能評価機構による認定を受けるなど、大きく様変わりする情勢の下、地域の中での役割を明確にして、連携を深め質の向上に努めてきました。

○センター病院から基幹病院へ


北館改築後の医療情勢の悪化の中でも、職員と協同組織の努力により2004年に債務超過を克服しました。医師問題などセンター病院としての構想がすすまず、242床の地域の基幹病院へ転換することを確認しました。高齢化が進む地域をベースにした保健・医療・介護の総合的な要求に応える左京区最大の民間病院として、総合力と大学病院や開業医との連携で存在意義を発揮できる病院へと舵をきました。そして、2018年に法人としてISO9001の認証、2014年4月には公益社団法人としての認定を受けました。

○第二中央病院南館リニューアル

現在、第二中央病院では2015年秋から老朽化した南館の全面リニューアル工事をしています。現地で診療を維持しながらの工事で、患者さんへ御迷惑をおかけしながらも患者さんのご協力の下行ってきた新南館はいよいよ今年の冬に完成します。新しい南館は「超高齢化多死社会」のなか新たな機能として緩和ケア病棟を開設し、これからも**地域の人達のための医療**を行っていきます。



◎わたしのおススメ◎



私は映画を観るのが好きでよくDVDをレンタルして観たり、映画館へ観に行ったりします。少し前に『爆音上映会』というミニシアターを巡回しているイベントがあり、ここで「AKIRA」を観ました。昔のアニメで、音がカッコいい映画なのですが、爆音で身体に響かせて映像を楽しむことで新鮮な感覚で観れて面白かったです。映画は同じモノでも観る時とその時の自分の求めているものとでまた違った受け止め方が出来るので、考えさせられたり、感動したり、人生観などいろいろ学ぶことができると思います。最近観た映画で印象に残っているのは「アリスのままで」という映画です。

50歳で若年性アルツハイマーになった女性のお話ですが、発症してからの家族との関係の変化や認知症が進行していく様子が、他者の目線ではなく本人の感覚を映像化しているところがあるのでなるほどー。と思いながら観ました。観ていて「え？」って戸惑うことがあり、それが認知症の人の感覚を表現されていたりするので、いろいろ勉強になるなと思いました。

学生の皆さんは勉強することが山盛りで大変だと思いますが、映画だと少し気楽に見られてしかも勉強の内容がちょっとだけ理解しやすくなるかもです。時間があれば観てみて下さい。ストレス解消には「新感染」おすすめです。韓国のゾンビ映画ですが主演のコン・ユがただただカッコいい！ゾンビ映画なのに最後号泣。イケメンに癒されて泣いてストレス発散できます。

京都民医連中央病院 北3階病棟 富永文乃

私の休日の過ごし方

皆さんこんにちは。暑い毎日が続きますが体調管理は出来ていますでしょうか？

私は現在外来でパート勤務をしていて、大体土日が休日になります。土曜日は旦那が仕事で子供たちもそれぞれ遊びに出る事が多いので、1人でまったりしています。午前中のうちに家の掃除、買い出しをして、昼からはのんびり過ごしています。録り溜めていた番組を一気に観たり、がっつりお昼寝をしたりします。日曜日は家族で買い物に行ったり、家でゆっくり過ごしたりと様々ですが、1週間フルで働いた週末は特別な事がない限り、次の週に備えてしっかり休むことが多いです。最近疲れが取れにくいので・・・

月1で平日に同僚と休みを合わせてお出掛けするのも楽しみの一つです。買い物に行ったり、映画に行ったり、色々と楽しい事に誘ってくれる友人のお陰で、忙しい毎日から解放されてすごくリフレッシュ出来ます。次の休みは京都・正寿院の風鈴祭りに行く予定にしているので、その日を楽しみに毎日頑張りたいと思っています。

京都協立病院 外来 山下 めぐみ